

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER



Contents

- P.2 第30回交流会レポート
(卒業式・贈呈式)
- P.5 第30回交流会レポート
(沖縄旅行)
- P.7 平成28年度新入生紹介

その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.

SPECIAL REPORT (ファルージャ)



- P.9 竜の子近況報告
- P.12 竜の子(OB・OG)近況報告
- P.15 SPECIAL REPORT
- P.16 編集後記

第18号
Jul.2016

Tatsunoko Foundation

公益財団法人 竜の子財団

第30回交流会レポート

平成28年3月18日（土）、竜の子奨学生7名が財団を卒業する日を迎えました。卒業生は紅型打（松柄）で入場し、秋元理事長からの式辞をいただきました。次に在籍奨学生を代表として曾毅春さんが送辞を述べ、最後に卒業生代表の答辞で金恩河さんが寄付者および関係者の皆さまへ心より御礼を申し上げます。

● 第9回卒業式 ●

式辞

秋元 竜弥 理事長

今日は卒業おめでとうございます。皆さんとは、色々な交流会を通じて多くの思い出が残っています。毎年卒業式になると、非常に寂しい思いがします。より一層今まで竜の子奨学生として学んだことを活かして財団が期待する人になり、社会貢献のできる人材になって下さい。竜の子財団は皆さんに奨学金をお渡しするだけではなく、交流会を通じて、日本の伝統文化を色々な場所に行きながら学んだと思います。皆さんのなかには母国に帰られる方もいらっしゃると思いますが、竜の子財団を卒業しても家族だと思って、何か困っている事があったらいつでも遊びにきて下さい。今年は4年に一度、第一期生から皆さんを含めてのOB会があります。そういう事ですから、皆さんとは今日は最後ではないのです。今まで皆さんを含めて302名の卒業生に送り出す事ができました。今日は先生、評議員、監事、寄付者の皆さん、交流会の協力者はいらっしゃいませんが、色々な方々に支えられて、卒業して行くんだという事を胸に刻んで下さい。



式辞を述べる秋元理事長

送辞

一橋大学 曾毅春（中国）

先輩方、御卒業おめでとうございます。皆さまの卒業式が、こんなに早く来るとは、信じられないような気持ちと共に寂しさがこみあげてきます。今、皆さんは、この竜の子財団での時間をどのように振り返っていらっしゃるでしょうか。多くの人との出会いの中で貴重な体験をし、特別な思い出を築き上げてこられたことだと思います。私は去年の新生として、みなさんと竜の子財団に所属するのは一年間しか無かったのですが、振り返ってみると、卒業生の皆さんとの、楽しく忘れられない思い出がいっぱいあります。例えば、王姫琴さんと金沢の兼六園で美



送辞を送る曾さん

しい景色を見ながら、就活などこれからの進路についての悩み相談をした思い出や、深夜12時の加賀屋の温泉の中で、真っ黒な日本海の海を見ながら海洋学の話をした思い出や、そしてくだらないのですが、財団会報誌の編集会議後の食事会で金恩河さんから聞いた夫婦別居の結婚生活と研究の両立が大変だ！など、まるで僕の世界と別の世界にあるような奇妙な話の思い出も、今でもはっきり覚えています。卒業生のみなさん、竜の子財団に入った当初にビデオの前で語っていた各自の夢、忘れていませんか？これからの新たな生活の中で、数え切れないほどの苦痛や、乗り越えるのに容易ではない壁にぶつかることもあるでしょう。そんな、決して楽ではない道のりに挫けてしまいそうなきときは、この竜の子財団での経験を思い出して下さい。奨学生同士、そして理事長を初め財団関係者との楽しい思い出は皆さんを元気づけ、勇気を与えてくれるでしょう。どんなことがあっても、常に前向きな姿で、当初の夢に向かって自分だけの道を切り拓いて行って下さい。最後に、卒業生の皆さまの益々のご健康とご活躍を心からお祈り申しあげ、送辞とさせていただきます。お元気で、さようなら。

答辞

筑波大学大学院 金恩河（韓国）

卒業生を代表して挨拶できる機会を与えてくださってありがとうございます。私は竜の子奨学生になって5年が経ちました。5年前というのはちょうど3.11の東北大地震があった年です。今でも忘れられないことは、震災後すぐ竜の子財団からメールが来たことです。「何か困っていることはありませんか。なんでも相談して下さい」とのメールだったと覚えています。地震が怖くてパニックになっていた時にそのメールをいただき、とても勇気づけられました。



答辞を述べる金さん

また、博士課程の学生は共感できると思いますが、博士課程の道を進む時、終わりが見えませんでした。何より自分と

の戦いで、挫折することも多くありました。大きな夢を持って歩んだはずなのに、暗くて辛くて何も見えない時もありました。そういう時に交流会を通じて秋元理事長をはじめ竜の子財団の方々、また竜の子奨学生同士での交流を通じて、挫折から立ち直すきっかけとなりました。一人だと思った時、仲間がいて心強くなり、頑張れる力をもらいました。5年間を振り返ってみると、感謝の気持ちでいっぱいです。寄付者の方々から経済的なご支援をいただき研究に集中することができたことにも感謝しておりますが、精神的なご支援については言葉に表すことができないぐらい本当に助けられました。父親が癌になったことを聞いた時も慰めてくださり、応援して下さったことや、立ち直る気力がなかったときにいただいた「キムさん期待しています」という一言や、指導教員の退官後色々悩んでいる私に今やるべきことを教えてくだ

さったこと、こういう言葉がなかったらここまで来られなかったと思います。また、今も心に残っているのは、理事長が教えてくださった「心、体、経済力」のバランスです。私も毎日の生活にこの3つのバランスを保てるよう、これからもがんばります。日本留学の中で竜の子奨学生として素敵な縁を築けたことは何よりも一生の宝物です。在学生の皆さんもぜひ、この縁を大切にしてください。世界のどこにいても私たちは竜の子としてつながっているのもっとも大きな夢を抱いて一緒に活躍できることを期待しています。理事長をはじめ寄付者の方々、財団関係者の方々、また奨学生の皆さん、今まで支えてくださって本当にありがとうございました。

● 第10回贈呈式 ●

同日、ルネッサンスリゾートにて第10回贈呈式が開催されました。第10期は8名の留学生たちが、新たに竜の子奨学生として迎え入れられました。秋元理事長から温かいお祝いの言葉を頂きました。チャンポーンパックディー・インオンさんが新入奨学生を代表して感謝の気持ちとこれからの決意について話してくれました。

式辞

秋元 竜弥 理事長

この度、竜の子奨学生として奨学金を受領できるようになりましたとおめでとうございます。この竜の子財団は奨学金を皆さんにお渡し、より一層学力に専念してもらい、そして皆さんは夢を叶え、日本と皆さんの母国との架け橋となる人材になっていただくのが目的です。今回は10回目ですが、今まで財団を支えてくださる先生、評議員、監事、寄付者やそれから交流会の支援をして頂いているの方々のもとに成り立っています。

今回、東京以外で贈呈式を行うのは二度目で、過去は新潟のスキー場で一度行いました。竜の子奨学生の先輩方はもう母国に帰って活躍している人もたくさんいらっしゃいます。皆さんは、このようなたくさんの方々を支えられているということをお忘れず、将来必ず夢を達成して、困った人たちに手を差し伸べられるよう、社会、世界平和のために貢献できる人になって下さい。

新入生代表挨拶

東海大学 チャンポーンパックディー・インオン (タイ)

この度、竜の子奨学生に選出いただきまして、誠にありがとうございます。今年の新入生を代表し、心より感謝申し上げます。私は人々が長生きできるように助けたいという夢を

子供のころから持ち続けております。

自分の国だけではなく、世界中の人々を助けたい気持ちを持っています。そのために、タイの中学校を卒業して、インドの高校に留学しました。しかし、その知識ではまだまだ足りないの

で日本の大学で医用生体工学を学ぶ事に決めました。医用生体工学とは医療系・工学系の知識を用いて生体に使われる治療機器と医療機器を理解し、正しく使用するための学問です。私は大学在学中に多くの資格を取得し、卒業後はより多くの経験を得るために日本の医療会社で働きたいです。その後は日本の大学と仕事上で学んだ日本の医療技術をタイの技術向上のために発揮したいと思います。さらに、将来は多くの国々を周り、より多くの人々を助けたいと思っています。

あわせて、体が不自由の患者の人が生活しやすくなるような医療器具の開発にも携わりたいです。私は、奨学生として、人一倍努力をし、人々が長生きできることはもとより、苦しんでいる人が、再び歩くことや自由に体を動かすことができるようになるなど、奇跡のような希望を実現できるような人間になりたいと思っています。改めまして、新入生を代表して、秋元理事長をはじめ、竜の子財団の方々に感謝の気持ちを表します。私たちは、これから奨学生としての自覚と責任



新入生を代表してスピーチするインオンさん

を持ち、一生懸命、学業に努めることをお約束いたします。また、人とのつながりを大切に、私たちだからこそできる、

国際交流をし、異文化理解をさらに深め、日本と母国の架け橋となることを誓います。

● 祝賀会 ●

卒業式・贈呈式に続いてルネッサンスリゾートホテルのビーチでパーベキューを行いました。秋元理事長から祝辞と乾杯のご挨拶を頂き、パーティーが始まりました。パーティーのメニューは島野菜と海藻サラダなどのサビニ海人アペタイサー、アバサー（ハリセンボン）汁、うちなー天麩羅、うちなーおでん、海人汁、ワニ肉や伊勢海老などの炭焼きパーベキュー、骨付き島豚腿肉のロースト、紅芋のカラメライズやココナッツミルクの冷たいタピオカ汁粉やトロピカルフルーツなどのデザートをいただきました。多くの種類の食べ物があり、食べきれなさそうな量が提供されましたが、皆さんの食欲が旺盛で、ほとんどを食べ切りました。とても美味しく、至極豪快な料理でした。私にとって、一番心に残る食べ物は大きな本マグロです。食べる前に本マグロの解体を行い、皆の分を切り分けていただきました。とても新鮮で美味しかったです。それに、サプライズとして、パーティーの途中で卒業生より竜の子財団関係者の方々に感謝の気持ちをプレゼントとして贈呈しました。食事が終わるころにはホテルからルネッサンス芸能部によるエイサー演舞や獅子舞、華やかな琉球舞踊など沖縄の伝統芸能が披露されました。エイサー演舞は、沖縄の民俗芸能であり、家内安全や健康を祈願するために太鼓を打つながら踊ると言う演舞です。また、獅子舞は、インドから中国へ伝わり、そして中国から日本へ伝わったといわれています。獅子がライオンのことで、昔は、インドで人を食べて生きていましたが、インドに人間が少なく

なってきたので大和の国に行くことにして、大和に流れて入りました。しかし、大和では人を食べる代わりに悪魔を退治すれば食べ物を与えられ、悪魔祓いの神として崇められました。そのため、獅子舞が人の頭を噛むことによって、悪いことから守ってくれ、学力向上、無病息災の利益があると考えられています。よって、獅子舞に頭を噛まれると、魔除けになり、一年をより良く過ごすことができると信じられています。獅子舞を行うときにボールを獅子の口に投げたり奨学生達の頭を噛んだりしながら踊っていて、本当に面白かったです。また、芸能部の方と乾杯したり、一緒に踊ったりしてとても楽しい時間を過ごせました。もちろん、私の頭も噛まれて、その時には、一年のよい年が迎えられるようにと願っていました。初めて交流会に参加し、さらに沖縄へ初めて行ったので、沖縄の料理、美しい海、文化、言葉、民俗舞踊など、普段では体験できない思い出が心にたくさん残りました。もしかすると、私は沖縄病に感染したのかと思います。また食事中に奨学生同士で話す機会がたくさんあり、面白い話がいっぱいできて、仲良くなりました。私にとって、このパーティーは先輩たちとの送別会ではなく、家族の歓迎会のような温かい感じがし、とても良い思い出となりました。私は新入生なので、先輩たちと大変短い時間しか交流できませんでしたが、またきっと必ず、笑顔で元気に再会出来る日を信じております。



(担当：平成28年度竜の子奨学生 東海大学 チャンポーンバックディー・インオン)

第30回交流会レポート（沖縄旅行）

第30回の交流会は沖縄で行いました。一日目はひめゆりの塔に見学に行って、夕方にはホテルで卒業式・贈呈式を行いました。二日目は美ら水族館で観光し、フルーツランドにて昼食をとり、最後にシーサーパーク琉球園でシーサー作りを体験しました。

● 一日目 ●

今回の卒業式は沖縄で行うというメールが届いた時、本当にうれしかったです。海がきれい、海がすごく青い、気温が暖かい…、これは沖縄のイメージでしょう。これまで交流会の場所は秘密でしたので、沖縄と知った時は皆、興奮したことになると思います。

交流会の1日目は、出発から始まります。東京からの出発は午前8時50分でした。沖縄をずっと楽しみにしていたので、とても元気でした。羽田空港に到着するとこれまでと同じように奨学生同士とすぐ楽しい話を始めました。沖縄までは2時間ぐらい掛りますので、飛行機の中では皆話をしたり、寝たりしていました。沖縄に到着した時はもう昼食の時間になっていたため、まずは沖縄そばを食べに行きました。沖縄そばを、いっぱい食べるのが沖縄の印象ですが、実は焼き肉が主食だと思います。

昼食の後は、ひめゆりの塔に見学に行きました。ひめゆりの塔では戦争犠牲者を慰霊するためと戦争の悲劇を後世に警告するための資料館です。ひめゆりという名前は当時の第三外科壕の学徒の学校名からなったそうです。本来は漢字の「姫百合」で表しましたが、第二次世界戦争後には平仮名の「ひめゆり」に変えました。また、この名前は植物のヒメユリとの関係もないそうです。ここを見学したことで、こんな美しい島が戦争に巻き込まれたことを初めて知りました。ひめゆりの塔の入口には犠牲者の名を刻んだ慰霊碑があり、そ

のすぐそばに「ひめゆりの塔」という小さい碑があります。ひめゆりの塔は「塔」という言葉を使っていますが、実際には小さい碑です。これは建設当時に材料などが不足したためらしいです。驚いたことは多くの見学者がここで写真を撮ったり、熱心に碑にある文字を読んだりします。ここは最も人気のあるところのようです。ひめゆりの塔の中に歩を進めると、資料館があります。最も印象に残ったところは戦争の様子を映し出しているビデオです。周りには死体だらけ、飛んでいるハエだらけ、どこでも吐き気が出るようなシーンでした。戦争は本当に残酷であると感じました。平和は誰に対しても守るべきことだと思います。戦争は悲惨で、苦闘の結果ですが、どうして戦争が起こるかについては実は私は良く理解できません。沖縄戦争における戦争の悲惨さは人間から大量の砲弾による攻撃でしたので、とにかく、戦争のための技術を開発しなければ、少しでも戦争を抑えられるのだらうと思っています。

その後、バスでルネサンスリゾートオキナワホテルに移動しました。ここはひめゆりの塔とは違って、楽しさだけ感じました。ホテルのスリッパは全部「R」だけ書いてありますが、あれ？「L」はないのですか？もしかして右足のスリッパだけ？とびっくりしました。実は「R」の意味は「Right」の意味ではなく、ホテルのマークでした。ここで、卒業生の皆さんは卒業式のための着替えに行きましたが、残った人た



ひめゆりの塔の入口にて



ルネサンスリゾートオキナワホテルのビーチにて

ちはすぐ近くの海に行きました。3月の東京はまだ寒いですが、沖縄は暖かったです。たぶんその頃は22°だったと思います。裸足で海に入って、すごく良い気持ちでした。海は青くて、本当に夢にしか出て来ないようなきれいな場所でした。風も暖かくて、夏のように感じました。皆は海で写真を撮ったり、海で押し合い遊んだりしていました。卒業式の後にはビーチの近くで夕食をとりました。夕食はバーベキューでしたが、私たち自分ではお肉を焼きませんでした。プロの職人に焼いてもらいました。肉以外はマグロの刺身もありました。これは現場でマグロを一枚一枚切って作られました。食事の途中にもショーがありました。沖縄特有な曲の演奏、沖縄特有の太鼓、シーサーショーもありました。本当に沖縄の文化をいっぱい体験しました。また、夜は竜の子財団の伝統的なゲームを新入生と一緒にやりました。このゲームはもちろ



ルネサンスホテルから出発前の集合写真

面白いのですが、皆と対話しないとできないので、お互いを知るためには一番よい手段だと思います。

● 二日目 ●

二日目、天気は晴れて暖かく、そして空は青い、とにかくいい気持ちです。この日は美ら海水族館に行きました。ここは沖縄で一番有名な水族館であり、色々なロマンチックな映画の撮影地となったこともあるようです。日本語だけでなく、時々中国語、英語なども聞こえます。もちろん人気な場所なので、水族館にはたくさんの観光客がいます。本来は順路に従って一つ一つ見るつもりでしたが、イルカショーをすぐに見ないと時間が間に合わないので、まず先にイルカショーを見に行きました。5匹のイルカは尾びれを振って観光客に挨拶をして、水にピーンと入って、また空に高く飛び出したりしました。このような光景は私にとって初めてでした。それから、順路に戻って、海の生き物を見続けました。サンゴ、熱帯魚、ヒトデ、ジンベイザメなどの様々な生き物を見て楽しめました。その後移動し、フルーツランドで昼食を食べました。沖縄はたくさん食べる印象で、ここでも焼き肉を食べました。牛肉や豚肉や野菜などがあります。たくさ

ん食べるように、「これらの肉も食べ放題ですよ」と聞き驚きました。

交流会の最後のイベントはシーサー作り体験で、シーサーパーク琉球園に行きました。ここでは、自分の好きなシーサーを選んで、色を付けます。シーサーは沖縄において、どこでも見ることができます。シーサーは魔除けという意味なので、外見から見ると、とにかく怖い印象です。皆が作ったシーサーはかわいいものもありますが、このような考え方のとおり、ほとんどの場合は怖いです。怖い外見ですが、シーサーは沖縄の特有なものということをよく感じることができました。

今度の交流会では沖縄の文化を体験できたことが良かったと思います。沖縄の食文化、沖縄の歴史、沖縄の美しさと沖縄の温かさを感じました。



沖縄美ら海水族館前での集合写真



シーサー作り体験

(担当：平成27年度竜の子奨学生 東京工業大学大学院 房 福明)

平成28年度新入生紹介 座右の銘・好きな言葉

人生は山あり谷ありで、悩んだり凹んだり落ち込んでしまう時があると思います。そんな時にはこの座右の銘があるととても役に立つのです。さらに竜の子奨学生たちとの交流を通して、自分の夢の実現に向かってこれからも頑張ることを信じています。ここで、新入生皆さんの新鮮な座右の銘を紹介いたします。



マハウオンウィリヤスタシニー
MAHAWONGWIRIYA SUTASINEE
(タイ出身)
東海大学
教養学部
国際学科2年生

私は「変わることを恐れるな」という言葉が好きです。私はずっと自分のことに満足していましたが、色々な人と出会ったことで自分のことを不満と感じました。自分で変わろうとしましたが、心のどこかに先も見えないところがあり、変化を怖れていました。しかし、勇気を出して自分の力で変わろうとしないと、何も変わらないと思います。人も時代も、全部時間の流れとともに変わりますので、私も変わることを恐れずに、日本に来て自分の夢を追い求めています。人生は一度きりなので、何も変わらないと後で後悔するから、今日から自分が出来ることを少しずつやっていきたいと思います。



チャンポーンバックディー イン オン
CHANPORNPAKDI ING ON
(タイ出身)
東海大学
工学部
医用生体工学部3年生

私の座右の銘は「いい仕事をするために、自分のやっていることを愛すること」です。人間はモチベーションに左右される事が多々あります。愛することをする時は、そうでない事をするときと、比べ物にならないくらい、いい結果が出ます。私の愛している事は人の為に関心する事です。子供の時、叔母が育ててくれていましたが、彼女は癌を患い、闘病の末亡くなりました。その時から、大切な人と一緒に長く生きたということ、強く思いました。さらに、歳を重ねるにつれ、大切にしている人が次第に多くなりました。また、誰にでも大切な人がいて、誰もがまた誰かから大切にされています。ですので、貧富を問わず、誰でも平等な医療を提供できるように、皆の命を大切にし、人生の生活の質(QOL)を高め、長生きできるようにしたいと思っています。



オウ カイトウ
王海涛
(中国出身)
東京大学
情報理工学系研究科
電子情報学専攻
修士課程2年生

私の座右の銘は、「怖れず、侮らず、迷わず」という言葉です。学部の時、私は時々、「自分の未来の仕事は何ですか?」「今の専門で勉強した知識はどう使っているですか?」ということに心配しました。でも、今の研究室に入って、先生と相談して現在の研究課題を決めてから、私は進む道を見付けました。今私は「自分の研究は人々の生活において役割がある」という夢を持っています。自分の未来へ迷いを持っている時、夢までの道が見えない時、怖れないで、自分が選んだ道を後悔しないで、自分の夢のため全身全力で頑張れば、夢が絶対に叶うことを信じています。だから私は「怖れず、侮らず、迷わず」という簡潔な言葉を座右の銘にしました。



ジョ ヨンシル
周英實
(韓国出身)
筑波大学
人間総合科学研究科
感性認知脳科学専攻
博士後期課程3年生

私の好きな言葉は、「意志あるところに道は開ける」です。この言葉は、家訓であり、どんなに困難なことがあっても、それを乗り越えようとする意志があれば道は開けるという意味を持っています。困難にぶつかって諦めかけたとき、よく父は、「自分が望むどおりに生きていくことは難しい。諦めなきゃいけないときも多くある。だけど、それでもあなたがやり遂げるとする意志があれば必ず、方法はある」と話してくれました。いつもこの言葉を思いながら、自分の夢に向かって、諦めず頑張っています。今、自分が学んでいることを活かして、子供たちが楽しく勉強できる教育環境を作りたいです。



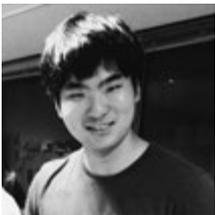
パク ハリン
朴 夏林
(韓国出身)
東京工業大学
生命理工学研究科
生物プロセス専攻
修士課程1年生

私は常に「先のことを考える」という父親の言葉を大事にしなが生きています。子供の頃から好奇心が旺盛で、新しい物事に対して怖がらない性格を持っていた私は、両親に心配かけることがよくありました。急にひとりで旅に出ってしまうなど、何かをやってみたくと思ったら他のことを気にせずに進めてしまつて両親を困らせたことがよくありました。しかしこの言葉があったため少しずつ先のことを考えながら進めるようになりました。私にとってこの言葉は何か大事なことを決めるときだけではなく、日常の中でも生活の軸として私を支えています。そしてこれからもこの言葉と共に夢に向けていきたいと思っています。



ムン キルジュ
文 吉周
(韓国出身)
九州大学 工学府研究科
機会工学専攻
博士後期課程1年生

「選択したら一生懸命頑張ろう。後悔がないように。」
人生の中では選択の瞬間は多いと思います。選択の間では一つを選ばなければならないと思いますが、自分が選択したことについては一生懸命頑張らなければならないと思います。私は自分で立てた夢や目標を達するためにいろいろな選択肢の中で最優先と思われることを選択し、選択したことについては一生懸命に頑張っています。選択をするまでは悩みや考えが多いですが、慎重に考えて選択したことについては後悔がないように頑張ると、結果が良かったことが多くありました。このような経験から選択に責任を持って最後まで頑張ろうといつも考えています。皆さんも後悔がないように選択したことについて一生懸命頑張ってみてはいかがでしょうか？



カク クンピョ
郭 錦表
(韓国出身)
東京工業大学
理工学研究科
材料工学専攻
修士課程2年生

私が好きな言葉は「失敗」です。この言葉が好きになったのは研究室に配属してからです。「失敗」と言えば、してはいけない事とネガティブなイメージでした。しかし、そのイメージは研究を始めて変わりました。実験をしてみたら、準備段階から材料特性を調べる実験まで、多くの実験は失敗だった。そこで私は指導教員から「失敗を恐れるな、実験の9割は失敗だった。大事なものは、その失敗から得た教訓を次にどう活かすかなのだ」と指導されました。失敗をしていく内にノウハウが蓄積され、そこから自分の実力あるいは自分のオリジナリティが生み出せると思います。失敗の経験は研究者として生きて行く上で強い武器になると思っています。以上より私は「失敗」が好きです。



トゥラ チョウ ナイン
Thura Kyaw Naing
(ミャンマー出身)
明治大学
国際日本学科
国際日本学部 学部4年生

好きな言葉を冷静に考えてその中から一つだけ絞り出すとやっぱり「自由」が一番好きだと思います。僕はそもそも自由でいるのが本当に好ましいし、将来どんな道を選ぶのかも自由で決めるほうが好ましいです。また日本に来て以来何となく「自由」付きの単語を聞いたらほっとしたり、楽しくなったりします。例えば服装自由の面接だったら、気楽な服装で行っても問題ないから、何となく安心しますし、ライスお替り自由のレストランだったら僕のような留学生にとって経済的に役に立ち、本当に楽しくなります。「自由」って本当に良いですね。



(担当：平成27年度竜の子奨学生 九州大学大学院 方 梅)

竜の子近況報告



大学のE-Naviで英語の練習（本人前列左端）

マハウオンウィリヤ・スタシニー （タイ出身）

東海大学 教養学部 国際学科
思想文化学専攻 2年

「2年生になりました」

暑さが日ごとに増してまいりましたが、いかがお過ごしですか。私は東海大学のスタシニーです。今年4月から2年生になりました。去年と比べると勉強が大変ですが、頑張っています。春学期もそろそろ終わりますので、インターンシップも考えています。現在、国際政治の関心を非常に持っていますので、インターンも国際政治に関することをやりたいです。なので、先週「国連ゼミナール」を応募しました。これからも色々なことを体験していきたいと思います。



韓国の友達とディズニーランドに行った

パクハリン 朴夏林（韓国出身）

東京工業大学 生命理工学研究科
生物プロセス専攻 修士1年

「希望の企業から内定をもらって嬉しいです」

もうすっかり夏気分ですが、暑さ対策は大丈夫ですか？私は最近無事に第一志望の企業から内定をもらうことができました。自分の分野を持って活躍するという私の夢に向けて一歩進むことができた気がします。これからは卒業まで研究と勉強に専念して行きたいと思います。こんな忙しい日々の中で竜の子財団に支えていただき本当に力になりました。今後ともみなさんどうぞ宜しくお願いします。

写真は韓国から日本に友達が遊びに来てくれて、一緒にディズニーランドに行っていました。すごく楽しかったです。



娘と私

ハウメイ 方梅（中国・河北省出身）

九州大学大学院 医学系研究科
医学専攻 博士後期3年

「研究と家庭を両立できるように頑張っています」

5月19日私と母は神戸に第57回日本神経学会学術大会参加しました。講演の発表を無事に終えました。赤ちゃんは9ヶ月になりました。今はたくさんハイハイして遊んでいます。息子は今年4月から保育園に通っています。子育ての先輩方から、「預けたら、3日に1回熱を出す」と脅されていて、てっきり比喻だと思っていました。ですがこの4月と5月の初旬、38℃の発熱がありました。今よくなりました。どんどん体力と免疫がつくのはじめの1年を頑張っています。



スマートグラスを着けている私

オウカイトウ 王海涛（中国・重慶市出身）

東京大学 情報理工学系研究科
電子情報学専攻 博士2年

「研究を頑張っています！」

最近私は「スマートグラス」の研究のため、ちょっと忙しいです。スマートグラスの透明レンズ上に投影した情報によるAR技術を応用して新しいナビゲーション体験を提供するため、様々な新しい技術を勉強しています。近年AR技術とVR技術はすごく注目を浴びています。これらの技術はもうすぐ私たちの日常生活の一部になることを信じています。

また、就職活動と文献発表も挑戦しています。これからも頑張ります。



海外国際学会に準備中

ムン キルジュ
文 吉周 (韓国出身)
 九州大学 工学府研究科
 機会工学専攻 博士1年

「海外国際学会準備」

6月19日から23日まで5日間アメリカネシー州のノックスビルで開かれる可視化情報学会に参加して今までの研究成果を発表します。学会発表のためにいろいろ準備するものが多いですが、学会で最新情報を取得し、世界各国の研究者とディスカッションを楽しみに期待しています。今回の学会が今後の研究に役になって欲しいです。



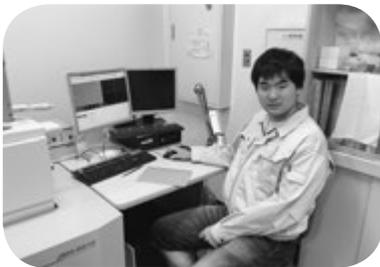
開発マイクロ経済クラスでの発表の準備中

ユルダジェヴ・サドラ・ヌルラエビッチ
 (ウズベキスタン・ダシュケント出身)
 名古屋大学大学院 国際開発研究科
 国際協力専攻 修士2年

「授業を受けながら、研究に頑張っています」

現在、大学院国際開発研究科で、「世界貿易機関（WTO）への加盟を目指す母国のウズベキスタンが、同加盟後にどのような法的義務を引き受けることになるか」を研究しています。

春学期が始まり、開発マイクロ経済の授業を受けながら、グループのリーダーとして現在の研究における様々なテーマで発表を行っています。第3回のテーマが「経済厚生上の従価税の効果」です。



電子顕微鏡で金属試料の表面観察をしている姿

カク クンピョ
郭 錦表 (韓国出身)
 東京工業大学大学院 理工学研究科
 材料工学専攻 修士2年

「元気にやっています！」

私は修士2年となってから、研究と兵役活動のことを頑張っています。韓国人男性は兵役の義務があります。私はその義務をまだ終えていないので、卒業後帰国して義務を果たしてきたいと思っています。兵役と言っても兵士となることだけでなく研究所や企業で働くことで兵役の義務を終えることもできます。私は後者を考えていて、就職活動みたいに対象研究所や企業にエントリーを出して兵役活動をしています。次回にいい結果をご報告させていただけるように頑張ります!!



去年のプログラムの様子 (本人後列左から2番目)

ソウ キシュン
曾 毅春 (中国・四川省出身)
 一橋大学
 商学部 3年

「学生団体での忙しい日々」

4月から「リードアジア」という学生団体の代表になりました。「リードアジア」とは、日本と中国の学生交流を推進しようとする団体で、毎年夏の間に一週間以上の合宿型の日中交流プログラムを独立行政法人国際交流基金と共に企画・開催しています。今年のプログラムは8月下旬に開催されますので、今はそのプログラムに向けて全体の企画を進めています。特に最近は参加者の募集や、協賛企業との渉外活動などで毎日忙しくて、時間に追われています。学生の力が弱いのですが、この活動を通して少しでも学生レベルでの日中交流を推進できたらと思います。



オランダへ留学する
友達との記念旅行
(本人右端)

ジョ ヨンシル
周 英實 (韓国出身)

筑波大学 人間総合科学研究科
感性認知脳科学専攻 博士3年

「頑張ってます！」

私は、博論のデータ収集のため、いま韓国にいます！毎日幼稚園や小学校を訪問し、子供達と楽しく過ごしています。このデータがいつか子供達に役立つことを思いながら残りの時間も頑張りたいと思います。また、皆さんと会えることを楽しみにしています。



友達の誕生日にサプライズパーティーで (本人左端)

チャンポーン
インオン (タイ出身)

東海学大学 工学部
医用生体工学科 3年

「新校舎へ引っ越しました」

私は今年度から東海大学医学付属が隣接する伊勢原キャンパスへ移動しました。今年はいよいよ専門科目が多くなり、大学の雰囲気も大きく変わっています。より少し大変ですが、大学生活を楽しみながら勉強を一生懸命頑張っています。大学3年生は出会いが増え、選択肢が増えてきます。もうそろそろ研究室と研究テーマを決まらないと行けないです。また、将来は就職するか大学院進むか迷っていますが、取り敢えず説明会を受けようと考えて会社説明会に出席しました。



3月の高校からの
大親友の結婚式
(本人左端)

キム テヒョン
金 允炫 (韓国出身)

京都大学大学院 工学研究科
機械理工学専攻 博士3年

「卒業に向けて頑張っています」

梅雨の季節で雨の日が多い時期ですね。
近日、不規則な生活をしながら頑張ったせいなのか年のせいなのか、左尿管結石ができました。しかし、幸いのできた結石は手術を要するほどの大きさではなかったので、今現在薬療法での治療しながら、私は学位のために3本目の論文と自分の夢を実現するために毎日一生懸命準備しております。

今後、私がお自分の夢を実現するようにご応援宜しくお願いいたします。



圃場の様子

ラ ベイジン
羅 珮菁 (台湾出身)

名古屋大学大学院 生命農学研究科
生命技術科学専攻 博士2年

「田植えの時期」

また田植えの時期になりました。今年の田植えは植える材料を増やしたり、天気の変化が去年より激しくなっていたり、体調が崩れやすくなっていたりしていますので、かなりの挑戦とっていました。けれども、先生と農場のパートさん達と後輩からのお手伝い頂き、想像より楽になり大変有難いです。それに、自分の田植えスピードは去年より上がっていると気づき嬉しかったです。これからの田植えも頑張ります。



めいじろうと一緒に

トゥラ ナイン

Thura K. Naing (ミャンマー出身)

明治大学 国際日本学部

国際日本学科 4年

「忙しい大学4年生」

同じ学年の友達はみんな就活が終わり、また遊ぼうとしています。が、私は就活もしないのに忙しいです。大学院に進学する夢を見つつ、国内の知名度の高い大学だけではなく、海外の有名な大学院も考えております。そのために専攻している学問の勉強をしっかりとしたり、夏休みの間にできるインターンシップを応募したり、TOEFLやIELTSの試験勉強をしたり、ゼミ論の準備をしたりなどで猫の手を借りたいと思うほど忙しい学部4年生の生活を送っています。夏休みに思い切り遊びたかったが、今は夏休みにやるインターンシップが受かどうか心配です。インターン経験は大学院入試に重視されるからです。



共同研究メンバー
会合にて

キン コウカ

金 香花 (中国・黒竜江省出身)

京都大学大学院 文学研究科

思想文化学専攻 博士3年

「地味の楽しさ」

去年から、松山高吉の一次資料の整理を始め、段階的に共同研究者たちと話し合う場に出席しています。100年も前の資料を直接に目で見、手で触れることができるどれだけワクワクさせることなのか分かったような気がしました。スキャナーを通して画像になったものは、もはやそのものではなく、現物には、作者が何かの途中で急いで思い出したが、書く場所がなくて適当に紙切れにメモを残したとか、鉛筆で書いて、薄くなってしまったというものがあるまま残っています。地味な作業ですが、地味だから楽しいです。



前回の(沖縄)交流会にて

ケン エ

権 慧 (中国・山東省出身)

東京大学大学院 人文社会系研究科

アジア文化研究専攻 博士3年

「研究と運動を両立」

私は相変わらず、論文頑張っています。最近7月末締め切りの学術誌論文に没頭しています。論文には韓国における受容についても論じていて、今の韓国語力では足りないと実感し、絶賛勉強中です。

昨年からはじめたヨガと筋トレはまだ続けています。ずっと座ったままで論文を書く体力が落ちてくるので、週一回は公園に行ってジョギングするように決めました。自宅から5キロぐらい離れたところに都立公園があることに最近気付きました。また、今年度から東大中文村上春樹研究会の会長に選出され、来月の研究会活動を企画していて、充実した日々を送っています。

竜の子(OB・OG)近況報告



ゲーム競技大会に
通じての国際交流

リュウ リョウ

劉 亮 (中国・山東省出身)

東北大学卒業

「NGOの仕事」

関係者の皆さま、大変ご無沙汰しております。皆さまいかがのお過ごしでしょうか？私は今年も相変わらず会社員として働きながら不動産投資を行っています。最近、新大久保あたりでMOBA (Multiplayer Online Battle Arena) ゲーム-Dota 2の競技大会を企画しております。進捗がありましたらを随時報告いたします。お時間がありましたらお越し下さい。



山手線に乗っている
通勤中の自分

シン チュウカ
申 中華 (中国・河北省出身)
東京大学大学院卒業

「社会人になりました」

今年4月から5年間お世話になった東京大学を出て、社会人になりました。週末除き毎日埼玉の北部から都内へ通勤し、往復4時間もかかります。ちょっと大変ですが、充実で楽しい毎日を送っています。そして、仕事以外の時間を利用して（通勤電車の中で）英語の勉強をしています。竜の子財団で培った「夢をあきらめず」の精神をずっと心の中に置き、一日も自分の夢を忘れず、いつか自分が大きく成長し、大きく社会に貢献するように頑張っています。これからも、竜の子財団の皆さんとお互い励みながら頑張ります。



宮崎牛と私 (本人左端)

イ デイヨン
李 大英 (韓国・ソウル出身)
北海道大学大学院卒業

「ふるさと納税で盛り上がる」

最近、ふるさと納税がはやりまして、会社の人々と10万円分の宮崎牛を頂きました（写真参照）。私の仕事の内容は健康食品を開発することです。皆さんが健康に過ごせるように頑張っていますが、まだ商品化までには至っていません。代わりに、世界が注目している健康法をお伝えいたします。それは、炭水化物を制限（低カロリー食）した食事を取ることで、炭水化物はもっとも利用しやすいエネルギー源ですが、食べ過ぎると体内で老化物質が生じ蓄積します。良い健康食品ができればご紹介いたします。



机の前の私

ソン ビンカ
孫 敏華 (中国・天津市出身)
東京大学卒業

「第15回日本再生医療学会に行ってきた」

今年の3月、最新の再生医療進歩状況を勉強するため、大阪で開かれた「第15回日本再生医療学会」に行ってきた。一番印象深かったのは、医学的に再生不可能だと定義された心筋細胞、神経細胞が再生医学研究の進歩によって再生可能になったこと。将来倫理上許可される場合、猪の体内で人の肝臓、腎臓などを「栽培」して、臓器機能不全の患者に移植することも可能なこと。



よい日本一日光竜王峡の巻 (前列中央が本人)
ギ トウキ
魏 登輝 (中国・河南省出身)
東京外国語大学卒業

「より多くの外国人に日本の良さを」

「交流、交心」が近況のキーワードになるのではないかと私ですが、名古屋から東京に戻って早くも一年以上が過ぎました。今の仕事は主に日本の自動車や機械、そして東京五輪に向けての建築材料の輸出入関係です。仕事の性質とも関連して毎日が海外の方々との交流に満ちております。海外の方々により日本を紹介できるように日々勉強はしていますが、日本に来てすでに10年経ったわたしは未だに新鮮に感じる日本の魅力は多々あります。これからも竜の子財団の理事長の背中を見ながら、ユタカな大人を目指して頑張ります。



仕事後の飲み会 (後列右が本人)
リン キリュウ
林 熙龍 (中国・福清市出身)
電気通信大学卒業

「仕事をがんばっています」

時間が経つのははやいもので、私は入社してから3年目となりました。システム開発を通して社会に貢献するという夢に向けて、日々の仕事をがんばっています。

プロジェクトの「納期/品質/コスト」の制限があるので、この仕事は簡単ではないと感じています。また、お客様に納品した後、自分が作ったシステムは世の中で稼働しているシーンを見てうれしい気持ちのほかに、いかに良いシステムを作らなければならないという責任も感じるようになりました。これから、優秀なシステム開発者を目指して引き続きがんばっていきたく思います。



養蜂場を取材する時の格好

キョ リンヨウ
許 臨揚 (中国・江蘇省出身)
名古屋大学大学院卒業

「中国の大学に就職しました～」

今年の5月まで日本にいましたが、今日本語講師として中国の蘇州にある蘇州科技大学に就職しました。仕事や中国の生活に慣れるまで時間がかかりそうですが、夢を持つ竜の子財団のみなさんと一緒に頑張っていきたいと思います。



現在の私

ガンバルト エンフジャルガル
(モンゴル・ウランバートル市出身)
立命館アジア太平洋大学卒業

「ワークライフバランスを楽しんでいます」

大学卒業後ローソンに就職し、3年を経て楽天に転職しました。残業の多い時代がもう変わり、今アフタシックスも楽しみながら生活しています。交流会とかの準備等に人員が必要等な時ぜひ呼んで下さい！喜んでやります！そして楽天の社員として何をどこで買えばいいかという無料のアドバイスの受付は随時受けてます！よろしくお祈いします！



年末に両親が東京に遊びに来た時 (本人左)

ト メイウ
杜 銘雨 (中国・山東省出身)
立命館アジア太平洋大学卒業

「みなさん、ご無沙汰しております」

SEとして富士通のグループ会社に入社し、クラウドサービス部で、企業向けのコミュニケーションサービスの提案設計と導入支援を携わってきました。

仕事面では、今年春にMicrosoft認定資格MCSEに合格し、自分の知識スキルがプロジェクトメンバーにとって、頼りのある存在になってきたように実感しています。

そして、去年12月に東京で自分の2Kのアパートを持つことができました。場所は錦糸町駅の近くなので、浅草やスカイツリーの近くに来たら、ぜひうちへ遊びにきて下さいね！

「NGOの仕事」

母国に帰国し約3ヶ月が経ち、現在はハノイで生活をしています。日本でできた友人や日本での生活を懐かしく思いながら、新しく始まった人生に期待で胸を膨らませています。

現在、私は持続可能な社会の創出をミッションとしたCCS (Center of Creativity and Sustainability) というNGO法人で働いており、発展途上国・貧困地域における開発プロジェクトに携わっております。このような仕事に就くことができたのも、日本での高度な教育を受ける機会を与えてくださった竜の子奨学金のおかげであり、大変感謝しています。私もまた、ベトナムの貧しい地域や他の発展途上国の人々のために様々な形で貢献していきたいと思っています。



仕事後の飲み会 (本人：左から4番目)

レ ヴァン ティトウ
(ベトナム・ハノイ市出身)
九州大学大学院卒業

「家族にもっと時間を」

4月19日に、70歳に父がなくなってから、初めて父は私たちの心の如何に大部分を占めていたことが分かりました。私たちを学校に行かせるために、父は一所懸命、心臓の病にかかっても働いてきました。父のおかげで教育を受けて、安定した生活を送ることができました。父が生きている間に、もっと一緒に話して楽しく時間を過ごせばよかったとずっと後悔しています。同じ後悔がないように、これからは母と兄弟と家族をもっと大切にしたいと思います。

追伸：竜の子奨学生財団の皆さまは、自分の心の中で財団の皆さまは家族と同じ大切な存在です。このご縁を末永く大切にしていきたいと思っています。



家族との楽しい時間

サイ ヘキゲツ
蔡 碧月 (台湾・台北県出身)
筑波大学大学院卒業

SPECIAL REPORT

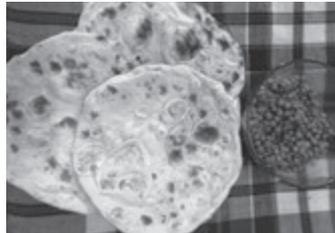
● 日の当たらないミャンマー食 — ミャンマーって本当は料理大国かも？ ●

料理大国と言える日本は家庭・伝統料理のお店をはじめ、世界各国の様々な食べ物や飲み物が堪能できるレストランは日本の大都市に集中し、日本に暮らすことはまるで豪華なレストランにいるのと同じだと思っただけではありませんか。普段考えたことのない料理の多様性を思うようになったのは昨年のアメリカ交換留学の時でした。当時の留学先の大学はデカ過ぎる学生食堂が4つあります。食べ・飲み放題制度で西洋食も東洋食も提供しており、食べ物の種類が富んでいるのを見受けた瞬間—やはり料理大国から来た私だからこそ驚いたのだと思ひ知りました。

この経験をきっかけにミャンマーと日本では海外から入ってきた料理の原点をあまり考えずに食べているという点で共通しているのだと気が付きました。具体的な例としてはラーメンや焼き肉やカステラがあり—本来は中国、朝鮮半島、ポルトガルから来たのだが、今や完全に日本料理になりました。このように本スペシャルレポートでは外国由来の美味しいミャンマー食べ物や飲み物を紹介させていただきます。

まずは朝食から始めたいです。ミャンマーは朝食の種類が数多くありますが、その中で毎朝のように食べている食べ物といえるのは、ナンピャアです。ビルマ建国の父アウンサン将軍が好んで食べたという歴史もあります。作り方は本来のナンと同じでインド系移民が持ってきた食べ物で

そこで、ナンはミャンマーにやってきて何故ナンピャアと呼ばれるようになったのかというと、原因はミャンマー語にあります。フラットな形を持つものにフラットという意味を持つ「ピャア」というミャンマー語を付けたからナンはミャンマーにやって来た以来ナンピャアと呼ばれることによってミャンマー化されました。しかも、形も円形へ変わりました。さらに、ミャンマーでは家庭で自ら作って食べているわけではなく、朝に家の誰かが喫茶店までナンピャアを買いに行きます。時々、家族全員で喫茶店までナンピャアを食べに行ったりすることもミャンマー人の朝食の楽しみ方の一つです。インドのナンは朝・昼・晩食べるが、ミャンマーのナンピャアは朝食の時だけで、一口で食べられる大きさに切り、蒸し豆と一緒に食べたり、または蒸し豆や玉ねぎを混ぜ、塩と油をちよっぴり入れ、サラダにして食べたりすることも一般的です。



ナンピャアと蒸し豆

ミャンマーは意外にスイーツやデザートが多いと思います。伝統のスイーツをはじめ洋風や南アジア風の多種多様のスイーツもよく見られます。その中からお気に入りのスイーツはファルーダです。ファルーダとはココナツミルクとローズシロップを混ぜ、その中にタピオカやプリンやアイスクリームやゼリー

などが入っているパフェだと簡単に説明することができます。また、原点は古代ペルシアであり、植民地時代に輸出されたそうです。以前から人気が続く、今やファルーダは冠婚葬祭にまつわる客をもてなすデザートとして使



ファルーダ

われています。甘くて濃厚で香りのあるファルーダは日本人旅行者の中にも人気度がかなり高いのです。

これからはミャンマーのお茶文化を知るうえで絶対に欠かせない喫茶店（ラペイエザイン）とミャンマー風ミルクティについて述べます。ラペイエザインは全国にあり、ミャンマー風ミルクティを提供しています。ラペイエザインでミルクティを飲みながらテレビでサッカー試合を観ることもある楽しみ方です。自分が応援するチームの試合を観て、自由時間を楽しく過ごすために行くことが多く、週末で有名なチームの試合がある場合、ラペイエザインは沢山の応援者で潤います。せっかくなので、ミャンマー風ミルクティの特徴を紹介したいと思います。ミャンマー風ミルクティは濃い紅茶に練乳を入れて作りますから、むしろ練乳ティとも言えます。入れる練乳や砂糖の量によって味が決められ、トータルで16種類の味があります。注文する時は「甘め」「ちょっと甘め」「極甘」など自分のお気に入りの味を頼みます。

ミャンマーは中国やインドやインドシナ諸国との文化・地理的な関係や英国植民地経験から与えられた影響によって多様な食べ物や飲み物と食文化を受け継ぎました。それらは時を経て今や完全にミャンマー化されました。本スペシャルレポートで紹介されたナンピャア、ファルーダ、ミャンマー風ミルクティ以外にもの外来食べ物がまだまだたくさんあり、もちろん、ミャンマー伝統の家庭料理やデザートも美味しいです。グルメを楽しむ旅行を目指すなら、ミャンマーも最適な選択肢だと言っても過言ではありません。また紹介された食べ物は500円ぐらいで食べられるので、本当に安いと思います。このように、まだ知る人ぞ知るレベルのミャンマーのある魅力を皆さんに発揮させて頂いて本当に嬉しく思いました。今後も自国の文化や魅力を発信できる新しいチャンスを期待しています。



ラペイエザインでの自由時間

(担当：平成28年度竜の子奨学生 明治大学 ナイン トウラ)

編集後記

委員長 東京工業大学大学院 房 福明

この度、編集委員長として竜の子財団の会報誌を編集するチャンスを頂き、ありがとうございました。竜の子奨学生になってから、今度は2回目の参加でした。会誌の編集流れについては分かっていますので、1回目と比べて不安などはありませんでした。編集会議を通じて1回目と変わらないことは奨学生同士との楽しい交流でした。研究はちょうど編集会議の期間と重なって忙しい時期でしたが、研究と会誌編集をうまく調整する計画を立てることができ、今後の仕事に対しても貴重な経験だったと思います。

副委員長 東海大学 チャンポー・バックティアー・インオン

この度、編集員を務めさせていただきました。私は編集の経験がなく、日本語もまだ不十分だと思って、最初は大変心配しました。しかし、編集員の皆さんと仲良くでき、皆さんから色々なサポートを頂いて、気づくと心が軽く、緊張や不安を解消させていて、とても良かったです。皆さんのおかげで会報誌が完成できました。本当に日本語の勉強になりました。とても素晴らしい経験でした。

委員 九州大学大学院 方 梅

今回の度編集委員として、心配と不安な感じがありましたが、会議に参加しました。私は下手な日本語ですが、他の編集委員と交流することで、文章の修正についていろいろ勉強になりました。この度「新入生の紹介」を担当しており、みんなとメールで連絡できて嬉しく、いい経験になりました。作文が苦手でありながらも、順調に進めることができ編集委員の皆さんに感謝します。

委員 名古屋大学大学院 ユルダジェヴ・サドラ・ヌルラエビッチ

この度、「竜の子奨学生」会報誌の第18号の編集に携わって、とても良い経験を得ることが出来ました。奨学生の近況報告の取りまとめという担当でしたので、財団の新入生、そして卒業生から取りまとめた近況報告を読み、皆さんは素晴らしく頑張っていると感じました。編集には、自分の日本語力が心配なのは当然でしたが、編集会議に参加するたび、委員の皆さんと話し合いながら編集担当の方が優しく教えてくださり、楽しく交流が出来ました。

委員 明治大学 ナイン トウラ

初めて皆さんと一緒に竜の子財団のニュースレター18号を楽しく編集しました。編集会議は難しいと最初は思いましたが、仲間たちも優しく、気が長くて、話し合いながらニュースレターの編集を終えました。また、編集のプロの方も色々助けてくれますので、今後編集に参加したい、でも難しいのではと心配している人は安心して下さい。



第1回編集会議にて



第2回編集会議にて



第2回編集会議後にて

ご寄付いただいた皆さまへ

竜の子奨学生を代表して、寄付者の皆さまに感謝の言葉を申し上げます。私たちは各自の夢を持って、日本まで来ました。ある人は一流の技術を身に付けるために、日本の技術を勉強に来ました。ある人は日本の文化が好きなので、実際に体験することで日本文化が分かるように日本に来ました。しかし、夢を実現するためにはただの行動だけではなく、自分だけで解決できない様々な困難があります。この中、一番の困難は勉強や研究と両立できない経済問題です。竜の子財団では私たちに経済的、精神的な支援をくださることにより私たちは自分の夢に集中することができました。そこで、ご支援して下さった皆さまに感謝の気持ちをお伝えしたいです。そして、ご寄付の皆さま及び社会に恩返しができるようにこれからも頑張り続けます。

(平成27年度竜の子奨学生 東京工業大学 房福明)



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林 (平成21年竜の子奨学生)

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず